

# 政策提言「東北復興博覧会」研究会 中間発表 「復興プロセスにおける博覧会事業の意義と役割」

○川西 太士（株式会社博報堂）

キーワード：博覧会、国際博覧会、園芸博、東北復興、まちづくり

## 1. 目的

博覧会という事業手法は、19世紀から20世紀にかけて各国の産業近代化やまちづくりの推進に大きな役割を果たしてきた。

本研究では、博覧会がこれまで社会に果たしてきた役割と効果を検証し、東北復興プロセスに求められる視点に対する博覧会手法の在り方を分析し、歴史的博覧会事業の価値を再発見し、東北地方の復興・再生に寄与すると同時に日本の復興再生に貢献する博覧会の意義と役割を見出すことを目的とする。

## 2. 方法

- ・過去の博覧会が社会に与えた影響や効果などについて公式記録や文献調査により、時代と博覧会の種類ごとに分析考察する。
- ・日本政府（復興庁）や東北各地の自治体を中心となって推進する復興再生プランを調査分析し、歴史的博覧会事業とのマッチングを検証する。
- ・各界・団体および有識者による、東北復興再生に関する多種の提言を調査分析する。
- ・国際博覧会事務局（BIE）、国際園芸家協会（AIPH）へのヒアリングを通じて、国際博覧会の今後の目指す方向について考察する。

## 3. 結果：博覧会の意義と役割

### ①国際博覧会と近代化～明治以降の日本の近代化と産業発展に寄与した博覧会

- ・明治維新を前後して「パリ万博」「ウィーン万博」に参加した日本は、近代国家の形成と殖産興業のモデル形成をこの万博事業の中に見出した。
- ・日本のもてる技、技術、知恵を切磋琢磨しそれを産業発展に結びつけると同時に、その成果の大衆化に寄与した内国勸業博覧会を開催。

### ②博覧会による文化社会資本整備への寄与～知見と技術の蓄積と一般への恒常的な普及

- ・ウィーン万博日本出展を契機に設立された国立博物館、大阪万博の継承である民族博物館、各地方博覧会を契機に整備された美術館や博物館など、博覧会を通じて得た知見、技術、モノを恒常的に普及させ、情報発信する装置としての博物館運動は、歴史的な博覧会事業と連動して発展してきた。

### ③都市開発の促進剤としての博覧会という手法の戦略的開発（シティ・ブランディング）

- ・神戸ポートピア博に代表される地方博覧会運動は、日本各地の都市開発、都市再開発の推進に伴うインフラ整備を促進させる役割としての地方博覧会やジャパンエキスポ運動を誘発させた。
- ・経済のバブル期と重なって功罪ともにあるといわれているが、「シティ・ブランディング」の有効な手法として世界やアジアからも注目されている。

### ④花博という転機～最先端技術体験から自然との共生を構築する新しい博覧会の開発

- ・1990年に、西欧以外で初めて開催された国際園芸博は、都市公園整備や園芸産業形成および新たな文化芸術活動の活性化を呼び起こすと同時に、花や緑といった自然と触れ合うことに多くの来場者の関心が集まった。

### ⑤自然災害からの復興再生に博覧会事業を活かした先人の知恵と遺業

- ・関東大震災からの横浜の完全復興を記念して開催された「復興記念横浜大博覧会」（1935年）、阪神・淡路大震災からの復興を国営公園整備と一体的に推進した「淡路花博」（2000年）など、震災復興に大きな功績を残している。

### ⑥地球的課題解決の場としての博覧会～愛・地球博が示したこと

- ・万博の意義が問われている中、日本で2回目の登録博として開催された愛・地球博は、構想段階からテーマ重視の姿勢を打ち出し、「万博は地球的課題の解決方法を模索する場」として様々な野心的実験的な試みを展開し、21世紀万博のモデルを提示したと世界から高い評価を受けている。

#### 4. 考察：東北復興プロセスへの博覧会手法の活用

##### ①未曾有の自然災害の記憶と復興再生にかける人々の想いと知恵を世界に発信する手法として活用

- ・東日本大震災の記憶を未来に引き継ぎ、復興に取り組む人、モノ、技、情報を一堂に集め、世界に情報発信していくことで、地球規模の自然災害から復興再生する、持続可能な文明システムの在り方を東北から発信していく。

##### ②東日本大震災からの復興プロセスを地球的課題として世界と共有する手法として活用

- ・より一層テーマ重視の姿勢を打ち出す BIE や、人と自然の関わりを長くテーマとしてきた AIPH からは、震災を契機とした地球的課題への取り組みに対する「東北復興」への関心は高く、これらの機関がリードする国際博覧会運動と連帯することで、被災地を地球規模で人類と災害について考える拠点に仕立てていく。

##### ③復興のまちづくりの世界的なモデルを示す〈場〉や〈機会〉として活用

- ・博覧会計画を通じて得る知見や技術を、復興のまちづくり計画と密接にリンクさせることにより、災害に強く、人と自然が共生するまちづくりの世界的なモデルを構築する。

#### 5. 結論

- ・復興プロセスに博覧会手法を導入することは、被災地域に多くの人、モノ、情報を集積させることを通じて、災害と復興についての技術、ノウハウ、人々の活動を世界に発信していくことである。また、東北復興を地球規模の自然災害からの持続可能な復興と再生の世界モデルとして示すことで、世界に貢献する日本としての復興再生を大きくイメージづけることができる。
- ・博覧会という事業手法の意義と効果を再度見直し、日本の復興再生を促進する事業手法として大いに活用すべきである。

上記の考察の結果を踏まえて以下の政策を提言する。

- ①「地球規模の自然災害からの持続可能な復興と再生」をテーマに、東北復興再生に寄与する国内博覧会事業を日本政府のイニシアティブで戦略的に推進する。
- ②BIE や AIPH などの国際博覧会運動との積極的な連携・連帯を強化し、東北復興再生の戦略タイミングを活かした国際博の開催を日本政府のイニシアティブと国際社会との連携で戦略的に推進する。